

稿 寄

医療・福祉現場で働く

聞こえない人たちの

声

-6-

「聴覚障害をもつ医療従事者の会」の神矢徹石^{かみやてつせき}です。左右70dBの感音性難聴で、社会福祉士、診療情報管理士、医師事務作業補助者等の資格を有しております。今回はあまり語られることのない診療情報管理士についてお話ししようと思えます。診療情報管理士とは、文字通り診療情報（つまりカルテ）を管理する職種です。

病院には様々な医療職の方がいて、それぞれが患者さんに関する診療情報を記録しています。このカルテに適切な記録がなされているかを点検することが診療情報管

理士の主な業務です。また、診療記録の検索や抽出を行ったり、診療記録をもとに疾病の分類や統計の作成を行ったりします。医師事務作業補助者と似たところがあり

診療情報管理士の業務
苦心する聞こえの配慮

ますが、医師事務作業補助者の主な業務は医師の負担軽減のために診断書の作成補助等を行うことであり、その点が異なります。

私は、当初、社会福祉士として病院に勤務していましたが、聞こ

えにくいことから診療情報管理士の職種を勧められました。診療情報管理室（中央病歴管理室）という部署で作業をしており、確かに他の職種より人と話をする機会が少ないように感じます。ただ、院内にある診療情報管理委員会（診療記録管理委員会）という組織の定期的な会議出席も業務の1つで、出席するだけでなく、議事録を作成する等、会議をとりまとめていく必要があるのです。それで、毎回マイクを用意して、出席者にマイクを通しての発言の配慮をお願いしています。

病院によって業務に若干の違いがあると思いますが、私たち働く聴覚障害者への理解が深まってくことを望んでいます。